



おおさか食品ロス削減パートナーシップ事業者交流会

地域とともに実現する  
食品廃棄物削減の取組み  
～地域共創活動の育て方

H20リテイリング  
サステナビリティ推進部



## 今日参加の弊社メンバー



エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社  
経営企画室 サステナビリティ推進部

部長 西田 哲也

CSR推進担当部長 吉田 玲子

CSR推進担当 武野 璃子

交流会含め宜しくお願い致します。



阪急OASIS

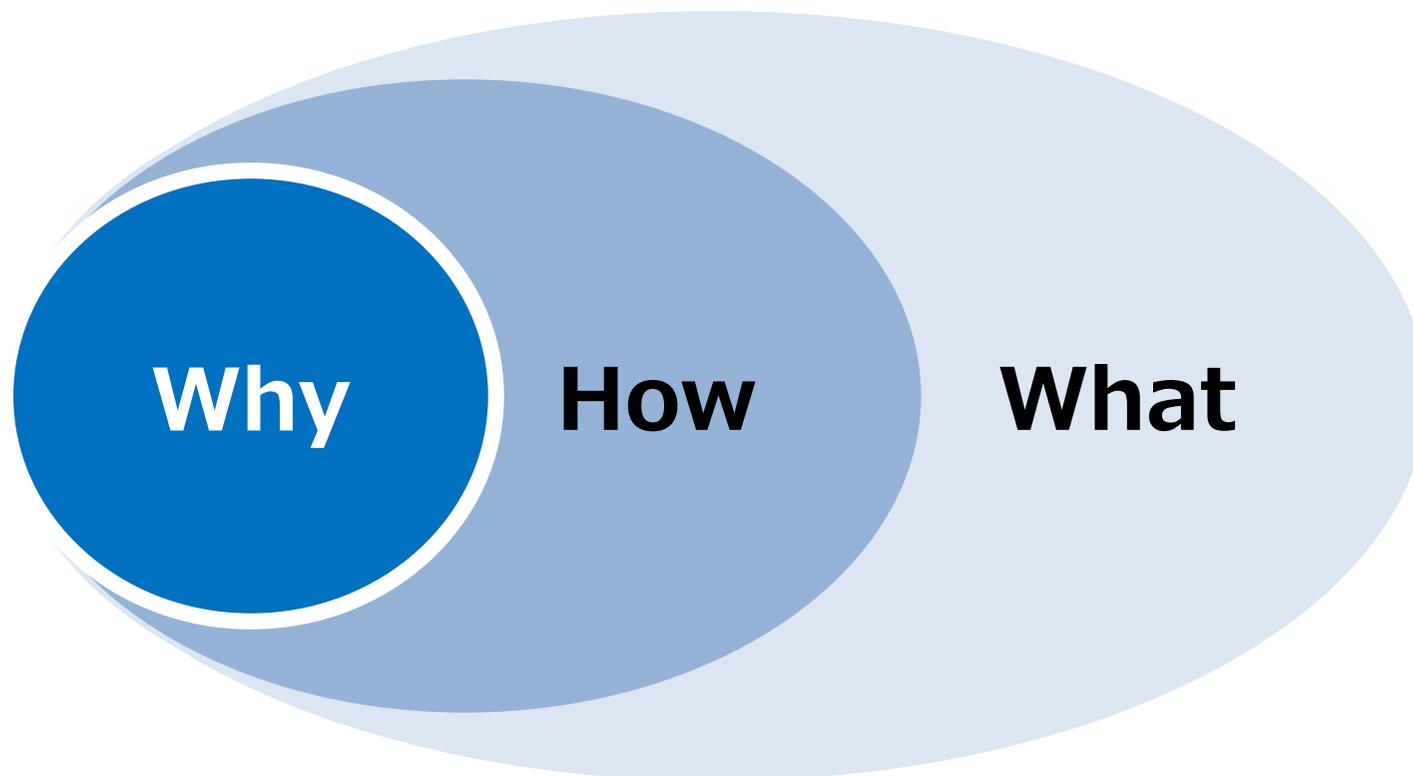
南西スーパー



H2O 商業開発



**本日は、私たちの食品ロス削減への向き合い方をお話したいと思います。**



**具体的な取り組みは、お配りしたタブロイドやリーフレットもご覧ください。**

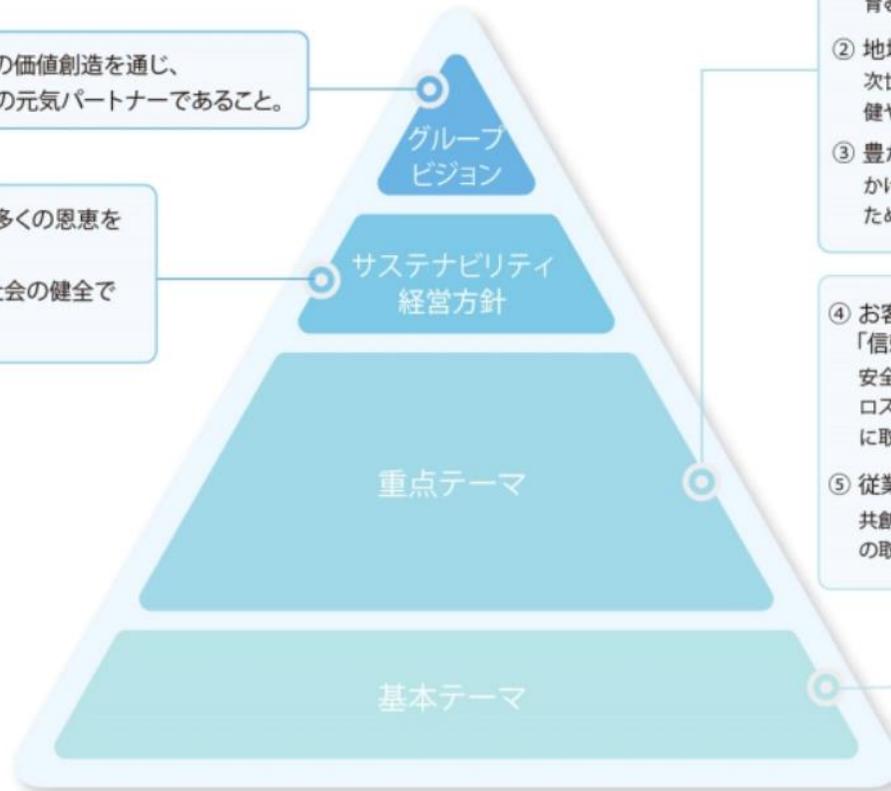


# H2Oリテイリングのサステナビリティ経営方針

私たちはこれまで地域社会から多くの恩恵を受けることで成長してきました。  
今後も地域の一員として、地域社会の健全で持続的な発展に貢献します。

「楽しい」「うれしい」「おいしい」の価値創造を通じ、  
お客様の心を豊かにする暮らしの元気パートナーであること。

私たちはこれまで地域社会から多くの恩恵を  
受けることで成長してきました。  
今後も地域の一員として、地域社会の健全で  
持続的な発展に貢献します。



① 地域の「絆」を深める  
地域に寄り添い、地域とともにつながりを  
育むことに貢献します。

② 地域の「子どもたち」を育む  
次世代を担う地域の子どもたちの  
健やかな成長(未来)を応援します。

③ 豊かな「地域の自然」を守り、引き継ぐ  
かけがえのない環境を次世代に残す  
ための活動に取り組みます。

④ お客様・ステークホルダーからの  
「信頼」に応える  
安全と品質、脱炭素、資源循環(脱プラ、フード  
ロス削減等)やダイバーシティ推進などに誠実  
に取り組みます。

⑤ 従業員の「働きがい」を高める  
共創・協業の風土醸成や成長機会創出のため  
の取り組みを推進します。

# H20リテイリングの地域共創活動





## H20リテイリングの地域共創活動

「地域共創型」の活動とは  
地域社会や住民、学校、企業、そして私たちグループの従業員も含めて参画し、  
手を携えて協業することを活動の基軸にした活動のこと

### 目的

地域社会や住民、従業員などステークホルダーの皆さまから  
愛され、信頼される存在になる

### 方針

私たちらしく地域とともに  
「目に見えること」「手の届く範囲」「地域サイズに合った」



## 3つの問い

1. **会社の食品ロスが減るだけで地域は良くなるのか？**
2. **生活者に近い小売にできることは何か？**
3. **生活者の意識変容・行動変容はどのようにして起きるのか？  
(業界を越えた取り組みが必要では？)**



## 考え方の転換

**For Customer**  
(お客様のために)

ご来店されたお客様には  
最高のサービスを提供する

店スタッフとお客様

+

**With Customer**  
(お客様とともに)

お客様と一緒に考え、行動し、  
結果を出す

お客様も共創パートナー  
過度なおもてなしはしない

店スタッフもお客様も  
ともに地域の一員

# 意識改革・行動変容へのメッセージの出し方とは？



生活者は  
様々な「資源」とともに生活している

行動が変わるのは、日々の生活を快適にするため

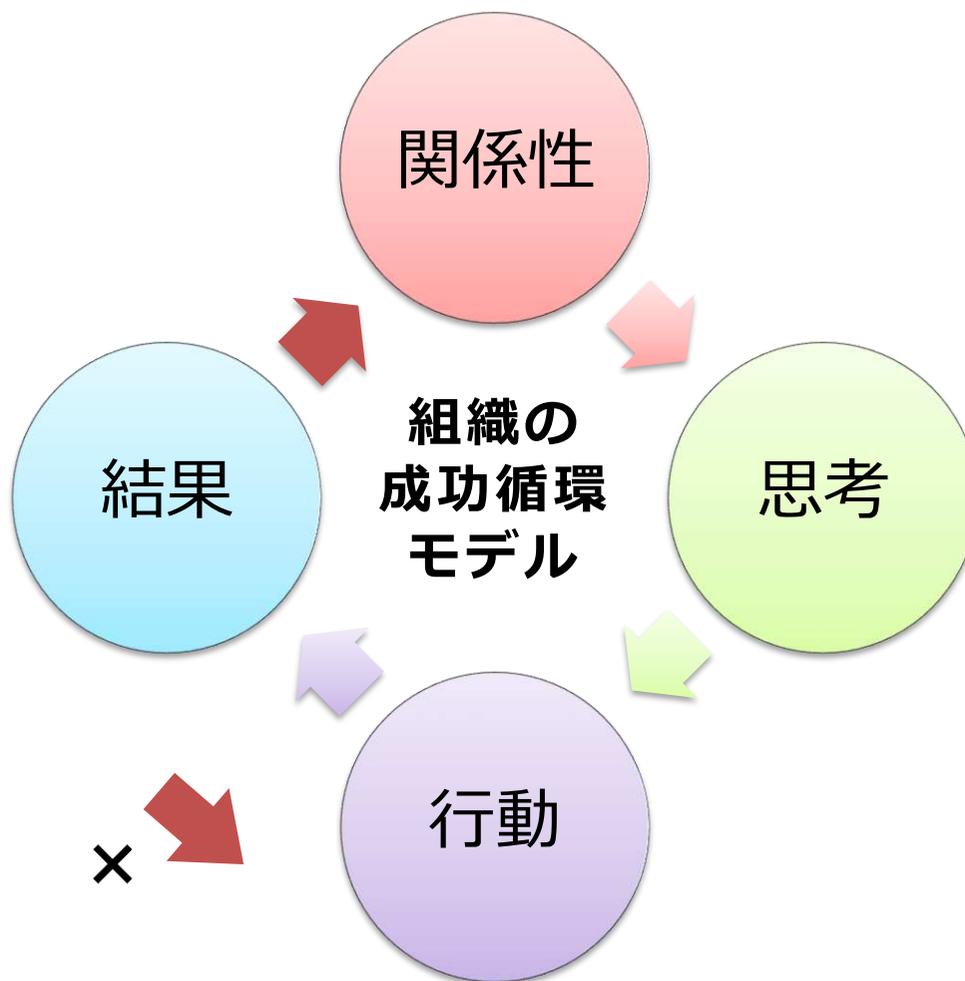


# 意識や行動変容は、関係性づくりから

－お客様もパートナー。共に考え、共に行動し、結果を出す

## 組織（チーム）の成功循環モデル

チームが成果を上げ続け、成功に向かう仕組み





## お客様を主語にする伝え方へ

### 企業が主語

例えば、「回収キャンペーン」  
回収する側が主語

企業 = 実施者、お客様 = 協力者  
協力に対するリターン



### お客様が主語

企業もお客様もパートナー  
お客様が主語になるメッセージって？

日々の生活が快適に、豊かになる  
イメージって？

お客様が自然に（手軽に、気軽に）参画できる  
プラットフォーム（仕組み）の構築が必要





# 未来のタネ、コンポストで育もう



## チャレンジデイズ

特製バッグを用い、コンポスト（家庭の生ごみを活用した堆肥）づくりに生活者が各家庭で一斉に取り組みます。できた堆肥を地域の誰もが気軽に立ち寄れる「オープンで見える場所」で活用し、街への愛着や参加者の一体感を醸成し、生活者の行動変容を目指します



## 「捨てるから育てるへ」を実感する 家庭用コンポスト実践企画

3週間、家庭で発生する生ゴミの堆肥化にチャレンジ  
毎日、生ごみの量を計量し報告  
事務局は疑問点やコメントを共有

できあがった堆肥は街の緑化に活用



地球Labo  
Agripoucher®コンポストバッグ

・おしゃれなデザイン  
⇒カジュアルに楽しく！

・丈夫で分厚い生地  
⇒虫や臭いの問題が起きづらい構造

・リサイクルPET素材の活用  
⇒バッグ自体が資源循環を体現

・堆肥の使い道がない…  
⇒街の緑化につながる活用提案

## 気持ちの変化

生ごみが資源に変わることが、こんなに簡単にできるとは思っていませんでした。子どもと一緒にゴミを減らす活動が家でできたこと、とても良い経験になりました。

チャレンジデイズに参加して重さを測ることによって、野菜は皮ごと食べることやヘタのギリギリまで使う、水切りをしてから捨てるなど少しでも減らしたいという意識の芽生えを感じることができました。

“ゴミ”と認識していたものが、実は“お宝”だったとは。そのお宝をバッグに入れるときのワクワク感はなにかのゲームのようであり、土に触れる瞬間は癒しの時間でした。投入するものによって土の匂いが大きく変化するのも面白く、土がホカホカしていると微生物を育てているような感覚にもなり、とにかく五感が刺激される毎日でした。買い物するときも意識するようになり、楽しんでしていたことが、結果的に地球に良かった！星10個付けたいくらい大満足でした。

**「楽しく取り組める」**  
「生ゴミを捨てなくていい」から生ゴミを減らすための工夫、ゴミ袋に残るプラごみなどへ意識が向く。土壌や地球環境にも関心が高まる。

# 気持ちの変化

友達や知り合いに話しましたか？  
話したいと思いませんか？

**Yes 92%**

フードロスを減らすよう行動することは  
どのくらい手間だと感じますか？

ほとんどかからない  
確かに手間かもしれないがさほど変わらない

**86%**

フードロスを減らすよう行動すると、  
家計の負担は増えると思いませんか？

**減る 80%**

変わらないように生産者も消費者も工夫が必要  
長期的にしないとどちらとも言えない

フードロス由来の堆肥を使った  
作物を買いたいと思いませんか？

価格に関係なく積極的に～ **73%**  
微妙に高いくらいなら選ぶ  
一般商品並みなら選ぶ **24%**

※一般向けアンケート 一般商品並みなら 50%  
安いならば選ぶ 25%

(n=140)

育つが見える  
ーキセラ川西プラザ花壇







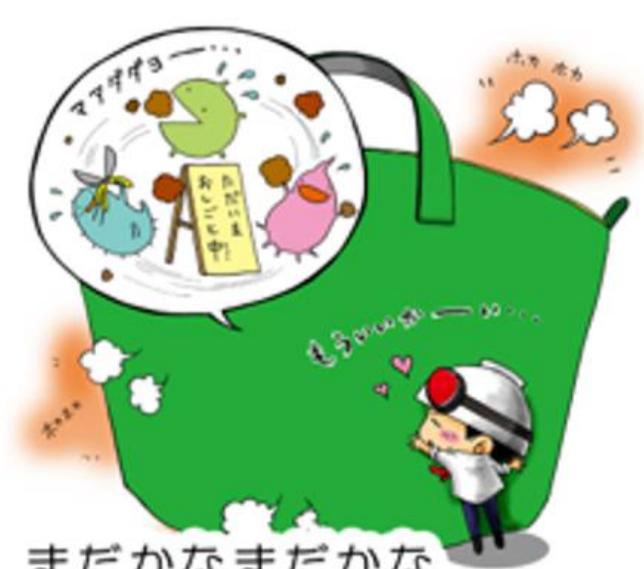




なまごみでたよ



バックにいれてよくまぜて



まだかなまだかな  
わくわくまてば



いかにかつちにへんしんだ!



みんなでちからをあわせれば



おはなばたけのできあがり!











# これまでの取り組み結果

## フードロスゼロチャレンジデイズ

2022年10月  
**第1回**  
38世帯  
115名参加  
139kg廃棄削減

2023年3月  
**第2回**  
40世帯  
136名参加  
167kg廃棄削減

2023年7月  
**第3回**  
45世帯  
138名参加  
168kg廃棄削減

2023年10月  
**第4回**  
61世帯  
192名参加  
237kg廃棄削減

2024年3月  
**第5回**  
75世帯  
210名参加  
302kg廃棄削減

参加者

**70**世帯 **800**人

生ごみ

**▲1**t



## 捨てられる食材にみんなで魔法をかけて救い出そう



### サルベージ・パーティ®

家庭で持て余している食材を持ち寄り、即興で調理を行う参加型イベントです。フードロスを知り、自分にできることを発見する場として、参加者自身が日々の購買行動や食品との向き合い方を変える機会づくりを行っています。





家で持て余している食材を持ち寄り、みんなでつくる料理を考えます。この日は、3グループに分かれ、担当の食材を目の前にアイデアを出し合います。











1時間半の調理時間でできあがった料理は、ぜんぶで9品！どれもおいしそう！



みんなで試食しながら、野菜の使い方や、意外な隠し味、ふだんはやらない食材の組み合わせなど、料理で工夫したポイントをシェアしました。



調理中に出た野菜の皮や切れ端などはまとめておいて、最後にコンポストに入れ待て処理しました。



コンポストは、地球Laboさんの [AgriPoucher®コンポストキット](#) を使用。サルパで出る生ごみは少ない方ですが、それでもゼロではありません。今後のサルパでは、地球Laboさんと連携して、生ゴミや野菜クズをつかってちいさな循環をつかっていきたいと思っています。

# これまでの取り組み結果

– 様々な場所で開催し、可能性を拡げてきました

参加者 **5**回 **120**人



ショッピングセンター（イズミヤSC）



野外（妙見の森）



地域飲食店



スーパーマーケット（阪急オアシス）

# 地域内資源循環 社会実験プロジェクト

Tsugu.

川西市からはじまるストーリー

自分たちの行動によって、  
 日常の生活の中で、目に見えて何かが変化する、  
 それによって日々の生活が少し快適になる、豊かになる  
 そんな実感や手ごたえが意識を変えたり、行動を変える  
 のだと思います。

# Tsugu.map

## ① 什器オークション

イズミヤ多田店 日生中央サビエ

百貨店で改装のたびに廃棄される商品棚や鏡。そんな什器に新たな持ち主を見つけるオークションを3ヶ所で開催。地域の事業者のみなさんに引き継いで、また新たな活躍の場が生まれました。

## ② グッド!ネイバー!ミーティング!vol.01

イズミヤ多田店 プレオオープンス

イズミヤ多田店内にあるシェアキッチン「プレオープンス」を活用し、イズミヤで廃棄直前の食材や、ご家庭で余らせている食材などを持ち寄りクッキング。30名を超える方に参加いただき、良き隣人が生まれそうな交流が起きていました。



## ③ 川西ロバタ会議

キセラ川西せせらぎ公園

現在のグッド!ネイバー!ミーティング!の前身となった取り組み。COFFEE EXPO & ALTERNATIVE SUQでの開催。はじめての人も一緒に火を囲みつつ、いろいろなものを焼きつつ、自由な交流を生み出しました。

## ④ キセラ川西ブラザガーデン

キセラ川西ブラザ

キセラ川西にはフードロスゼロチャレンジデザインを通じて生まれた花壇があります。地域のみんなでコンポストに取り組み、できた堆肥を使って花壇をつくりました。ぜひ、季節ごとに変わっていくお花を変えてください。側にはこの花壇がどうやってできたのがイラストでわかる看板もあります。

## ⑤ 地球環境再生ツアー

川西緑葉

生ごみが堆肥に生まれ変わり、堆肥として大地が豊かに再生されていく様子ツアー形式でめぐりました。一日にどれくらいの生ごみが出るのか、どうやって堆肥が変わっていくのか、その堆肥でどんな花や野菜が育つのか。それらを五感で学び、最後は給日記で記憶と記録しました。



## ⑥ グッド!ネイバー!ミーティング!vol.02

妙見の森パーベキューテラス

船勢電鉄の110周年記念イベントと合同開催。妙見の森パーベキューテラスを活用し、屋外で「グッド!ネイバー!ミーティング!」を開催しました。炭火を使い、各チーム「スープ」というお題でクッキング。さまざまなプロジェクトの関係者が集まる素敵な時間となりました。

## ⑦ Tsugu.CLOSET

-グリーンアップサイクル衣類回収-

川西市まちなか交流拠点マチノマ 川西緑葉 MIXCAFE

しゃりりんプラザ多田東 ケーキ工房 泉栄

捨てられる服や着なくなった服をそのままリユースするのではなく、集めて新たな素材にすることで再びプラントナーなどのプロダクトにして次の使い手にバトンパスしていく取り組みです。川西市内では、思いはあるけれど着ることがなくなったみなさんの衣料品を通したつながりがづくりに取り組んでいます。



## ⑧ フードロスリサイクル実証実験

イズミヤ多田店 阪急オアシスキセラ川西店

2022年からはじまった取り組み。食品スーパーで発生する食品廃棄物を資源に変えようという実証実験をしています。現在は、阪急オアシスキセラ川西店の食品廃棄物をバイオコンポスターという機械を使って堆肥に変えて、川西市内に緑を増やす活動を行っています。

## ⑨ 食べ物はどこから来るの?

「カレーライスを一から作る」上映会

阪急オアシスキセラ川西店

食品スーパー×映画上映?一見、変わった組み合わせですが、食品スーパー「食べる」ことにとっても近い場所。そこで「カレーライスを一から作る」というキュレーター映画を上映。食べ物はどこから来るのか、どれだけの時間がかかるのかなど、みんなで観て考える機会をつくっています。

## ⑩ Tsugu.CLOSET -服と向き合う日-

オアシスタウンキセラ川西店

クローゼットの中に置いたままの服はありますか?いつのまにか着なくなった、着られなくなった、でも捨てられない、そんな服と向き合い、新たな関係性を紡いでいくためのイベントです。服を学ぶセミナー、フリーマーケット、リメイク作品販売などに加えて、衣類が繊維に戻り、新たなものに生まれ変わるグリーンアップサイクル®をご紹介します。

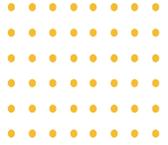
## ⑪ 網延橋駅ファーム

船勢電鉄網延橋駅

フードロスゼロチャレンジデザインを通じて生まれた畑です。地域のみんなでコンポストに取り組み、できた堆肥を活用した場所の第2弾。「駅の中に畑?」という不思議な場所で、野菜が育っています。ここではせでんのヘッドマークを使った看板で、駅を利用する方に取り組みをお知らせしています。



詳細はお配りするリーフレットをご覧ください



## まとめ

- ・**地域共創で 長期的・持続的なムーブメントを  
(お客様もパートナー)**
- ・**他事業者様とも非競争領域としてパートナーシップを構築**
- ・**モデル化し、共創エリアを拡大**

### 〈キーワード〉

「目に見える」「手の届く」「地域のサイズに合った」

# 悩みを打ち明けながら進める 悩み = 関わりしろ、共感や共創が生まれるポイント

## 実際の参加者の声



チャレンジデイズのこと、オープンチャットのこと、色々お聞きした中で『悩みながらやっています』と言われた言葉が印象に残りました。

ツアー参加後オープンチャットに書き込みしてみようと思ったのも、提供されるだけじゃなく自分も何か役に立てればと思ったからです。



交流会、楽しみにしております

ご清聴いただきましてありがとうございました。